

(別記様式)

令和5年度 府立東舞鶴高等学校 浮島分校 学校経営計画（スクールマネジメントプラン）（ 実施段階 ）

学校経営方針（中期経営目標）	前年度の成果と課題	本年度学校経営の重点（短期経営目標）
<p>☆ 地域を支える勤労青少年を育成するとともに、様々な入学動機や背景・事情を抱える多様な生徒の就・修学、進学・就職を支援する夜間定時制高校としての役割を果たす。</p> <p>1 日々の授業を大切にするとともに、学習指導・進路指導・生徒指導の3つを一体的にとらえ、きめ細かい丁寧な指導を行うことにより、学力を向上させ社会を生き抜く力を身につける。</p> <p>2 生徒一人ひとりが家庭・地域社会で認められ、学校生活の様々な場で成就感・達成感を持てるように導く。</p> <p>3 教職員と生徒が協働し、基本的な規範意識と倫理観、公共心や思いやりなど、人間性・社会性を育むとともに、安心・安全な学校にする。</p>	<p>(成果)</p> <p>1 総合的な探究の時間を活用し、地域と連携したフィールドワークを充実させることにより、地元の産業を中心とした地域理解を深めることができた。</p> <p>2 個別指導やキャリア教育を通じて生徒の進路意識等のステップアップを図り、進路決定率100%を達成することができた。</p> <p>3 ソーシャルスキルトレーニング(SST)を実施し、自己の現状を認識して将来を考える力を養うことができた。</p> <p>(課題)</p> <p>1 総合的な探究の時間を充実させることにより、主体的、対話的、協働的な学習を深める。</p> <p>2 ICTを活用した授業方法をさらに開発し、効果的に運用する。</p> <p>3 ソーシャルスキルトレーニング及びキャリア教育を充実させ、自己理解や進路意識の向上を図る。</p> <p>4 人権感覚や規範意識を高め、より良い社会を構成する社会人としての素養を養う。</p>	<p>重点1 学びに向かう力の育成と、基礎・基本を重視した学習指導の推進</p> <p>(1) 生徒の個別最適な学びの実現</p> <p>(2) 体験的な学習や探究的な学習等の充実</p> <p>重点2 コミュニケーションを大切にした生徒指導の推進</p> <p>(1) 生徒の内面や生活状況等の深い理解・把握に裏付けられた指導・支援の充実</p> <p>(2) 生徒の主体性を育てる取組の開発・充実</p> <p>重点3 生徒一人ひとりのニーズを踏まえた教育活動の推進</p> <p>(1) 実社会と結びつけたキャリア教育の開発</p> <p>(2) 社会的自立に寄与する健康・安全教育の充実</p> <p>重点4 学校DX化の推進</p> <p>(1) ICTを活用した学校運営の改善及び持続可能な働き方の改革</p> <p>(2) BYOD時代にふさわしい教科等指導の充実及び環境整備</p>

評価領域	重点目標	具体的方策	評価		成果と課題
重点1 学びに向かう力の育成と、基礎・基本を重視した学習指導の推進	生徒の個別最適な学びの実現	生徒個々の学力に応じた学習指導を目指して、基礎学力テスト及び定期考査等から生徒の学力を的確に把握するための教員研修及び基礎学力向上会議を実施する。	C	C B	<ul style="list-style-type: none"> <li>基礎学力を把握するための教員研修及び基礎学力向上会議を実施することにより、全教員が生徒の基礎学力について共通した理解を持つことができた。</li> <li>授業における生徒の学習行動の明確化により、授業規律及び基本的学習習慣を定着させることができた。</li> <li>生徒がもつ基礎学力の課題には様々な要因が関係しており、それぞれの要因に対応した学習指導の実施については不十分であった。</li> <li>課題学習では、昨年度の取組を進化させて探究活動を行い、発表の機会を設定することで、まとめる力や発表する力を高めることができた。</li> </ul>
		授業規律を確保し、基本的学習習慣を定着させるために、授業における生徒の学習行動（聴く、書く、考える等）を明確化した授業を実施する。	B		
		生徒が達成感の得られる学習を実現させるために、生徒の学力に応じた学習課題設定に基づいた授業を実施する。	C		
	体験的な学習や探究的な学習等の充実	自主的な学びにつながる授業を目指して、自ら調べる機会を増やした授業を実施する。	B	B A	
「調べる」、「まとめる」、「発表する」等の基本的な探究方法を生徒が身につけるために、充実した「総合的な探究の時間」を実施する。	A				
重点2 コミュニケーションを大切にした生徒指導の推進	生徒の内面や生活状況等の深い理解・把握に裏付けられた指導・支援の充実	学校や家庭における生徒の実態等について把握するため、中高連絡会等による中学校との連携、綿密な生徒面談や家庭連絡等を実施する。	B	B B	<ul style="list-style-type: none"> <li>中高連絡会や、生徒面談、家庭連絡等はある程度綿密に行うことができた。</li> <li>「個別の指導計画」に関して、教員全員で意見を出し合い作成することができた。</li> <li>スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカーと定期的に協議することにより、生徒との関わりについて相談したり、生徒の状況等について相互に情報を共有したりすることができた。</li> <li>学校行事について、生徒の意見を反映させつつ実施することができた。（給食のパンの決定、体育祭の競技、遠足の計画等）</li> <li>事後に振り返る機会については、さらに充実させる必要がある。</li> </ul>
		組織的に生徒の指導・支援を実施するために、担任及び特別支援教育コーディネーターを中心に「個別の指導計画」を作成し実施する。	A		
		生徒の状況に即した指導・支援を行うために、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーとの定期的な連絡・協議を実施する。	A		
	生徒の主体性を育てる取組の開発・充実	前年度よりもさらに充実した学校行事を実施するため、コロナ感染防止対策等により制限されていた内容について検討し、体育祭の準備や競技、文化祭の準備や発表で、学校行事の充実に資するものについては復活させる。	A	B B	
生徒が主体的に学校行事に取り組むことができるよう計画に関わる機会を増やし、事後に振り返りの機会を設定する。	B				

評価領域	重点目標	具体的方策	評価		成果と課題
重点3 生徒一人ひとりのニーズを踏まえた教育活動の推進	実社会と結びつけたキャリア教育の開発	生徒が職業観を深めるために、昼間におけるアルバイト等の就業経験から労働について考察する機会を設定するなど、就業経験を活かした進路学習を実施する。	C	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・アルバイト等による就労と学業の両立を実現させている生徒は増加したが、就業経験を活かした進路学習(キャリア教育)を実施するまでには至らなかった。</li> <li>・1学期に4年生を対象とした就職模試を実施したことにより、自己の適性を理解する機会となった。2学期以降は1年から3年生を対象とした進路学習の実施により、進路意識の向上を図ることができた。</li> <li>・4年生卒業予定者3名の内、就職希望者が1名、進学希望者が2名であったが、進路決定率100%を達成した。</li> <li>・SSTについて、各学年の様子に応じた取り組みを実施できた。</li> <li>・アンケートを実施し、結果を生徒に還元できた。</li> <li>・講演をさらに充実させたいが、時間の確保が難しい。</li> </ul>
		自己の適性に合った職業選択ができる力を育むため、様々な職業を知るための「総合的な探究の時間」や進路HRを実施する。	B		
		就職率及び進学率の100%達成を目指し、充実した進路面談、面接練習や筆記試験対策等、進路希望実現のための対策を組織的に実施する。	A		
	社会的自立に寄与する健康・安全教育の実施充実	生徒が安定した生活を確立し、自己理解や他者との関わりを育むために、ライフスキルトレーニング(LST)やソーシャルスキルトレーニング(SST)を実施する。	B	B	
健康・安全に関する理解を深めるため、外部講師を招いて講演会を実施する。		B			
食生活や健康に関する意識を高めるために、食に関するアンケート結果の生徒への還元、「保健だより」の発行を実施する。		B			
重点4 学校DX化の推進	ICTを活用した学校運営の改善及び持続可能な働き方の改革	出欠席状況に関して、指導・支援を要する生徒に即応して対応できるように、ICT活用により出欠席に関する指導システムの改善を実施する。	A	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・出席状況について、日々共有フォルダにあるExcelファイルを用いて、管理することができるシステムを実施できた。</li> <li>・Teams上でアンケートの実施、体育祭の得点表示など使用できる場面では活用できているが、他のアプリについて新たなものは導入できなかった。</li> <li>・文化祭前に動画編集についてのICT研修を行い、それを活かした生徒発表に繋げることができた。</li> <li>・悉皆研修により、それぞれの教員が、スキルの向上を図ることができた。</li> <li>・多くの教員が、プレゼンテーションアプリを活用した授業を実施できた。</li> </ul>
		校内の情報共有やペーパーレス化をさらに推進するため、Teamsを活用する機会を増やすとともに、学校運営の改善に役立つ他のアプリについても積極的に活用する。	B		
	BYOD時代にふさわしい教科等指導の充実及び環境整備	各教員が教科指導等へICTを応用できるように、京都府教育委員会主催の学校DX悉皆研修で習得した内容について情報交換を行う校内研修を実施する。	C	B	
		ICT活用方法の多様性について理解を深め教科指導に活かすために、各教科の特性に応じたICT活用方法について交流する校内研修を実施する。	B		
		情報発信に関して、各教員のスキルアップを目指し、授業や学校行事においてプレゼンテーションアプリを積極的に活用する。	B		

<p>学校関係者 評価委員会 による評価</p>	<p>○いろいろな事情を抱えている生徒が多いと思うが、一人でも多くの生徒が卒業できるように取り組んでいただきたい。  ○DX化は教育活動の基礎を形成する最低限の取組なので、次年度はもっと重点的に取り組んでいただきたい。  ○現在は教材・教授法に加えて「学習者としての目線」を考慮して「個別最適化」の授業が実施されなければならない。「学習者としての目線」を考慮した授業改善をしていただきたい。  ○現在の学校には「合理的配慮」が義務付けられているが、どのように対応していくのが重要になっている。今後は合理的配慮についても考えていただきたい。  ○東舞鶴高校の良い点を発信して中学生を引きつける取組は重要である。そのためには、広報動画を第三者に評価してもらうことも必要ではないか。  ○学校ホームページの更新のタイミングがより早くなるよう、ホームページへのアップを積極的に行ってもらいたい。  ○定時制も資格取得等の取組も考えてみてはどうか。</p>
<p>次年度に 向けた改善の 方向性</p>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 様々な課題を抱えている生徒について全教職員が情報を共有し、スクールソーシャルワーカー、スクールカウンセラー等と連携して生徒の指導・支援を行う。</li> <li>2 特別支援教育コーディネーターを中心に、特別な支援を必要とする生徒に対する支援について計画し、全教職員が理解した上で有効な手立てを実施する。</li> <li>3 学習用端末（タブレット）を活用した授業が充実した内容となるよう、次年度に引き続き研修や研究授業等によって授業における学習用端末の活用方向を探究する。</li> <li>4 「学習者の目線」を考慮した授業改善につなげるため、コミュニケーションを重視した授業をさらに充実させる。</li> <li>5 次年度に引き続き、総合的な探究の時間を充実させて、地域を理解し、地域と繋がる学習を実施するとともにホームページ等で発信する。</li> </ol>